

# 公共政策フォーラム 2016 in 津南

## 報告書

平成 28 年 9 月 24 日(土)・25 日(日)

主催: 公共政策フォーラム 2016 in 津南実行委員会  
(日本公共政策学会・津南町)

協力:株式会社津南高原開発(ニュー・グリーンピア津南)

協賛:株式会社クリアーウォーター津南(「津南の天然水」550ml×480本ご寄贈)

## はじめに

「公共政策フォーラム 2016 in 津南」は、平成28年9月24日（土）及び25日（日）の2日間にわたり、「みんな雪のおかげ」というテーマで開催しました。初めて町村で開催されるということで、今までとは違う方法での開催を検討し、初日に「大学生による政策コンペ予選会」を行い、2日目に「大学生による政策コンペ決勝戦」を行いました。全国14大学18チーム、約200名の大学生が政策提案を行いました。予選会では会場を2つに分け審査を行い、各会場上位3チーム（全6チーム）を選考し、2日目に予選会を突破した6チームから決勝戦として再度発表してもらい審査をしました。その6チームには、最優秀賞となる日本公共政策学会長賞、津南町長賞、津南町議会議長賞、津南町教育長賞、日本公共政策学会特別賞、公共政策フォーラム 2016 in 津南実行委員会特別賞の6つの賞をそれぞれ授与しました。若者らしい斬新で独創性のある視点で様々な提案がなされ、会場は熱気に包まれました。

2日目は、大学生による政策コンペ決勝戦のほかに、苗場山麓ジオパーク講話ともちつき体験&試食会を行いました。苗場山麓ジオパーク講話では、津南町教育委員会ジオパーク推進室の佐藤雅一室長より講話を行い、もちつき体験&試食会では、昔ながらの杵と臼を使用したもちつきを参加学生も体験し、つきたてのお餅をその場で味わっていただき、大変好評をいただきました。

津南町では今後の町政のあり方や、町や地域の活性化に向けて「津南町まち・ひと・しごと創生総合戦略」や「第5次津南町総合振興計画－基本構想・後期基本計画－」を平成27年度に策定し、町政運営に取り組んで参りました。そんな折に開催された「公共政策フォーラム 2016 in 津南」で大学生から斬新で独創性ある提案をいただいたことは、当町にとって、また町民にとっても大変有意義であり、今後の町政運営の大きなヒントになると考えております。

2日間にわたるフォーラムの記録である本報告書が、地方、特に降雪地域が抱える課題・問題の解決の糸口になることを願っております。

最後に、フォーラムを開催するにあたり、多大なご尽力を賜りました日本公共政策学会の関係者の皆様、またご参加いただきました多くの方々に厚く御礼申し上げます。

平成28年10月

公共政策フォーラム 2016 in 津南実行委員会

実行委員長 小野塚 均

(津南町副町長)

## 目次

大学生による政策コンペ テーマ	1
公共政策フォーラム 2016 in 津南 実施要項	2
大学生による政策コンペ 実施要領	3
大学生による政策コンペ 審査員配置表	6
大学生による政策コンペ 審査基準	7
交流会等の日程	8
公共政策フォーラム 2016 in 津南 プログラム	9
大学生による政策コンペ 審査結果	11
公共政策フォーラム 2016 in 津南 開会式	12
大学生による政策コンペ 決勝戦	15
苗場山麓ジオパーク講話・もちつき体験&試食会	17
審査結果発表・表彰・講評・閉会式	19
公共政策フォーラム 2016 in 津南 実施体制	26
公共政策フォーラム 2016 in 津南 準備状況	26
公共政策フォーラム 2016 in 津南 決算書	27
おわりに	28

# 大学生による政策コンペ テーマ

## 『みんな雪のおかげ』

津南町の人口は、昭和 20 年の 22,039 人をピークに、その後は減少を続けており平成 22 年の国勢調査では 10,881 人となっている。また、年齢 3 区分別人口割合では、年少人口が 11%、生産年齢人口割合が 52%、老年人口割合が 37%であり超少子高齢化となっている。さらに国立社会保障・人口問題研究所の将来推計では、平成 52 年の町の人口は 6,670 人まで減少すると推計され、消滅可能性都市の一つに挙げられた。

この人口減少・人口流出・少子高齢化は、町の基幹産業である農業にも影響を与えている。町の農業は稲作（魚沼産コシヒカリ）中心であるが、担い手不足が顕著であり、担い手の確保・育成が課題となっている。

また、人口減少・人口流出の要因の一つであると考えられるものとして「雪」がある。津南町は日本有数の豪雪地帯であり、最大積雪量は平地でも 3m 超、山間地ともなると 4～5m にもなる。降雪期間では、交通網を確保するため大型除雪機械による除雪作業が早朝から行われ、また地域住民も生活圏の除雪作業に追われ、地域住民にとって「雪＝デメリット」という意識が強い。

しかし、この地域で生活するなかで「雪」は切っても切り離せない、生活の一部となっているのも事実であり、「雪」があるからこそ築かれた歴史・文化・知恵がある。観光振興では、スキーやスノーボード、スノーシューなどのウィンタースポーツ、農業振興では、雪下にんじんの栽培や雪室の活用、その他の産業振興として、雪冷熱を活用したデータセンターの誘致がある。また津南町は、平成 26 年 12 月に長野県栄村とともに「苗場山麓ジオパーク」が日本ジオパークの認定を受けたことから、農業・観光・教育など様々な面での活用が求められている。

こうした「雪」の利活用はごく一部であり、今後さらなる利活用を検討していくことが求められている。

津南町に限らず地方の降雪地域において、「雪」という自然資源を利活用する政策を創り出すことで、「雪＝デメリット」から「雪＝メリット」へ転換し、『みんな雪のおかげ』で人口減少・人口流出などの課題や、農業振興、観光振興、雇用の創出などへ繋がっていく可能性を秘めていると考える。

今回の学生による政策コンペにおいては、「雪」を利活用した農業振興・観光振興・人口増加（交流人口拡大）・雇用の創出などについて、学生諸君の様々な視点からの現状分析と事例研究等に基づく、津南町をはじめとした地方の降雪地域への政策提言を望むものである。

# 公共政策フォーラム 2016 in 津南 実施要項

## 1. 開催日

平成28年9月24日（土）～25日（日）

## 2. 会場

ニュー・グリーンピア津南

## 3. 日程

《1日目》

内 容	時 間	会 場
開会式	9:30 ～ 9:40	体育館
政策コンペ予選会	10:00 ～ 15:45	第1会場：オーロラ（6階） 第2会場：大会議室（4階）
審査結果発表・講評	18:00 ～ 18:30	ペガサス（2階）
交流会	18:30 ～ 20:00	

《2日目》

内 容	時 間	会 場
政策コンペ決勝戦	9:00 ～ 10:30	体育館
苗場山麓ジオパーク講話	10:30 ～ 10:50	
もちつき体験&試食会	10:50 ～ 11:40	
結果発表・表彰・講評	11:40 ～ 12:10	
閉会式	12:10 ～ 12:20	

## 4. 政策コンペについて

別紙1の「大学生による政策コンペ実施要領」をご覧ください。

## 5. 交流会について

予選会の審査結果発表、講評、交流会については、別紙2の「交流会等の日程」をご覧ください。

## 6. 問合せ先

公共政策フォーラム 2016 in 津南実行員会事務局

津南町役場 総務課 企画財政班（担当：小林義明）

〒949-8292 新潟県中魚沼郡津南町大字下船渡戊 585 番地

TEL：025-765-3112 FAX：025-765-4625

E-mail：[somu@town.tsunan.niigata.jp](mailto:somu@town.tsunan.niigata.jp)（総務課宛）

# 大学生による政策コンペ 実施要領

## 1. 開催日時

【予選会】平成28年9月24日（土）10:00～15:45

【決勝戦】平成28年9月25日（日）9:00～10:30

## 2. 会場

【予選会】第1会場：ニュー・グリーンピア津南 6階 オーロラ

第2会場：ニュー・グリーンピア津南 4階 大会議室

【決勝戦】ニュー・グリーンピア津南 体育館

## 3. 政策発表について

### （1）発表スケジュール

別紙Aの「大学生による政策コンペ発表スケジュール」を参照ください。

### （2）発表時間

- ・1チームの発表時間は15分を予定しています。
- ・発表後、審査員との質疑応答を5分程度予定しています。
- ・発表と質疑応答で1チーム20分を予定していますが、発表にかかる準備や撤収の時間は含みません。

### （3）発表方法

- ・マイクロソフト社のパワーポイントを使い、プロジェクターでスクリーンへ投影して行うものとします。
- ・パワーポイントデータは、USBで当日ご持参ください。

### （4）発表用パソコン

パソコン・プロジェクター・スクリーンは事務局で用意します。

※OS：Windows7、マイクロソフトパワーポイント2013内蔵パソコン

### （5）配布資料

小論文とは別に発表資料を配布する場合は、50部印刷し当日ご持参ください。

## 4. リハーサルについて

別紙Bの「政策コンペリハーサルスケジュール」を参照ください。

リハーサル時間は、準備・撤収を含めて1チーム30分以内とします。

なお、政策コンペ参加申込書にて、リハーサルを希望したチームのみとなります。

## 5. 審査について

### (1) 審査方法

- ①参加チームを2会場に分け、予選会として審査します。
- ②審査により各会場の上位3チーム（全6チーム）を選考します。
- ③選考された6チームは、2日目に決勝戦として再度プレゼンを行っていただきます。  
※決勝戦の発表順はくじ引きにより決定します。
- ④決勝戦のプレゼンを審査し、最優秀賞等を選考します。

### (2) 表彰の内訳

- 日本公共政策学会会長賞（最優秀賞）
- 津南町長賞
- 津南町議会議長賞
- 津南町教育長賞
- 日本公共政策学会特別賞
- 公共政策フォーラム 2016 in 津南実行委員会特別賞

### (3) 審査員

審査員長：後 房雄 日本公共政策学会長（名古屋大学大学院教授）

審査員氏名	所属等
岡本 哲和	日本公共政策学会 副会長（関西大学教授）
加藤 淳子	日本公共政策学会 副会長（東京大学大学院教授）
昼間 守仁	日本公共政策学会 理事（元東京都小平市役所）
田口 一博	日本公共政策学会 会員（新潟県立大学准教授）
根津 和博	津南町総務課長
清水 修	津南町教育委員会教育次長
村山 詳吾	津南町議会事務局長
樋口 明	(株)津南高原開発（ニュー・グリーンピア津南）代表取締役社長

#### 【予選会】

上記8名の審査員で、2会場に分けて審査を行います。

なお、後会長は審査員長として両方の会場を見ます。

審査員の配置は、別紙Cの「政策コンペ審査員配置表」を参照ください。

#### 【決勝戦】

審査員長を含めた全審査員9名で審査を行います。

### (4) 審査基準

別紙Dの「大学生による政策コンペ審査基準」を参照ください。



## 6. 小論文の提出について

### (1) 提出期限

**9月20日(火) 午前9時(必着)**

### (2) 小論文の作成形式

○小論文は図表を含む1万字程度としてください。

○用紙は以下のとおりに設定してください。

- ・A4 縦向きで横書き
- ・余白は上下左右すべて25mm
- ・文字数×行数は40字×40行
- ・フォントはMS明朝で10.5ポイント

○最初のページに表題、大学名・学部名・ゼミ名(指導教員氏名)、代表者氏名、発表者氏名、参加者氏名を記載してください。

※表題：中央揃え・フォントサイズ16ポイント

その他の項目：左揃え・フォントサイズ10.5ポイント

○表題等の次(本文の前)に「梗概」(概ね800字程度)を記載してください。

○パワーポイントのスライドを小論文に入れる場合、1ページ当たり最大6スライドまでとしてください。

### (3) 提出先・提出方法

・事務局に、E-mailにて **PDF ファイル**で提出してください。

・メールの件名を「公共政策フォーラム小論文(チーム名)」としてください。

### (4) その他

○小論文集は1チーム1冊のみの配布とさせていただきます。

※フォーラム終了後、津南町ホームページに掲載しますので、必要な方は各自でダウンロードしてください。

○小論文集は、提出いただくPDFファイルをそのまま白黒印刷とします。

○小論文とは別に発表資料を配布する場合は、50部を印刷し当日ご持参ください。

## 7. 問合せ先

公共政策フォーラム2016 in 津南実行委員会事務局

津南町役場 総務課 企画財政班 担当：小林義明

〒949-8292 新潟県中魚沼郡津南町大字下船渡戊585番地

TEL：025-765-3112 FAX：025-765-4625

E-mail：[somu@town.tsunan.niigata.jp](mailto:somu@town.tsunan.niigata.jp) (総務課宛)

## 大学生による政策コンペ 審査員配置表

### 【審査員長】

後 房雄 日本公共政策学会 会長（名古屋大学大学院教授）

### 【審査員】

≪ 1班（第1会場：オーロラ） ≫

氏 名	所 属
岡本 哲和	日本公共政策学会 副会長（関西大学教授）
昼間 守仁	日本公共政策学会 理 事（元東京都小平市役所）
根津 和博	津南町総務課長
清水 修	津南町教育委員会教育次長

≪ 2班（第2会場：大会議室） ≫

氏 名	所 属
加藤 淳子	日本公共政策学会 副会長（東京大学大学院教授）
田口 一博	日本公共政策学会 会 員（新潟県立大学准教授）
村山 詳吾	津南町議会事務局長
樋口 明	(株)津南高原開発（ニュー・グリーンピア津南）代表取締役社長

※予選会は上記の配置で審査を行います。決勝戦については、審査員長を含め全審査員9名で審査を行います。

## 大学生による政策コンペ審査基準

### 1. 審査対象

小論文及び発表内容

### 2. 審査基準

以下の6項目について、各5点ずつ配点し30点満点で採点します。

No.	審査項目	配点	審査対象
I	テーマ及び課題の把握が的確かどうか	5	レジュメ資料（小論文）
II	論点の明晰さ	5	発表内容
III	表現の適切さ	5	
IV	具体性・実現性	5	
V	独創性	5	
VI	発表時間の適切さ（※下記3.参照）	5	
採点合計		30	

### 3. 口頭発表時間の減点方法

上記2「審査基準」の中の、「VI：発表時間の適切さ」については、発表時間15分に対して発表時間の長短で減点を行います。また、審査委員の質問時間を5分程度予定しています。

実際の発表時間		減点数
5分未満		-3
5分以上	10分未満	-2
10分以上	13分未満	-1
13分以上	15分以内	0
15分以上	16分以内	-1
16分以上	17分以内	-2
17分以上	18分以内	-3
18分超		-4

※発表時間が18分を超えた場合は、その時点で発表を打ち切らせていただきますので、あらかじめご承知おきください。

## 交流会等の日程

### 1. 日 時

平成28年9月24日（土） 18:00～20:00

### 2. 会 場

ニュー・グリーンピア津南 2階 ペガサス

### 3. 日 程

#### ①政策コンペ予選会の結果発表（18:00～18:05）

各審査会場の上位3チーム（決勝戦進出チーム）を発表します。

#### ②講評（18:05～18:20）

各審査会場の審査員代表から、政策コンペの講評をいただきます。

#### ③決勝戦発表順のくじ引き（18:20～18:30）

くじ引きにより決勝戦の発表順を決定します。

#### ④交流会

飲み放題・食べ放題になります。

政策コンペ参加大学生や大学教授、学会関係者、行政関係者が参加します。

### 4. その他

- ・交流会の参加費は、宿泊料に含まれていますので新たに徴収はしません。

## 公共政策フォーラム 2016in 津南 プログラム

### 【第1日】

期 日：平成28年9月24日（土）

会 場：ニュー・グリーンピア津南 オーロラ・大会議室・ペガサス

内 容：大学生による政策コンペ予選会

9時30分	開会式
10時00分	政策コンペ予選会 発表及び質疑応答
12時00分	昼食・休憩
13時45分	政策コンペ予選会再開
15時20分	審査
18時00分	審査結果発表・講評
18時30分	交流会

## 大学生による政策コンペ予選会発表スケジュール

《第1会場：ニュー・グリーンピア津南6階オーロラ》

時間	大学名	発表テーマ
① 10:00 ～10:20	中央大学総合政策学部 細野助博ゼミナール	癒される雪国—津南— —雪がつなぐ人と人—
② 10:25 ～10:45	愛知学院大学 小林明夫ゼミナール	交流がサスティナブルな地域を創る～高齢者と児童との コラボ、つなごう津南、つながれ未来～
③ 10:50 ～11:10	関西学院大学 政治学研究部	雪をコンテンツとした観光地域づくり
④ 11:15 ～11:35	日本大学法学部 岩崎正洋ゼミナール	「いつ行っても良かった津南へ」—雪の結婚式からは じまる白銀の舞台—
⑤ 11:40 ～12:00	明治大学 市川ゼミナール公共政策班	空き家を助雪し町を元気に！～あなたもオーナー「一口 家主制度」～
昼食・休憩		
⑥ 13:45 ～14:05	大東文化大学環境創造学部 齋藤ゼミ	津南「ごっつお」ミュージアム～シェアしてつなぐ、 雪のおかげ～
⑦ 14:10 ～14:30	静岡文化芸術大学 片山ゼミ学部生	創造と交流～雪国における舞台芸術の拠点展開～
⑧ 14:35 ～14:55	愛知大学 野田ゼミ	津南ピック～雪ビティで繋がる、広がる津南町～
⑨ 15:00 ～15:20	関西大学 永田ゼミナール	雪資源を活用した湯治文化の再構築による地域活性化 策

《第2会場：ニュー・グリーンピア津南4階大会議室》

時間	大学名	発表テーマ
① 10:00 ～10:20	長野県短期大学 野口ゼミナール	ゆきのようちえん・ゆきのがっこう
② 10:25 ～10:45	日本大学 中川ゼミナール	帰省型観光の提案 豪雪地帯が目指す理想のまちづくり
③ 10:50 ～11:10	北九州市立大学 檜原ゼミナール	豪雪地域における「スノープライド」を軸としたまちづくりー新潟県津南町を事例としてー
④ 11:15 ～11:35	専修大学 石川ゼミナール	100%ホワイトクリスマスの街。津南
⑤ 11:40 ～12:00	法政大学 廣瀬克哉ゼミナール	「雪室にんじん」で津南を元気にー雪室を利用した複合的な産業振興を目指してー
昼食・休憩		
⑥ 13:45 ～14:05	愛知大学 公共政策 西堀ゼミ	雪国の持続的発展を目指して～空き家を拠点とした冬季間におけるアートプロジェクト～
⑦ 14:10 ～14:30	学習院大学 藤田ゼミナール	「雪」と廃校を活かした観光招致ー「津南ブランド」発信の場としての夜市場構想ー
⑧ 14:35 ～14:55	明治大学 木寺ゼミ	地域留学が自然と人をつなぐまち～学生がデザインする新しいコミュニティのカたち～
⑨ 15:00 ～15:20	関西大学 行政学研究会	雪の厳しさを学ぶ体験型ツーリズム事業案

【第2日】

期 日：平成28年9月25日（日）

会 場：ニュー・グリーンピア津南 体育館

内 容：大学生による政策コンペ決勝戦・講話・もちつき体験&試食会

9時00分 政策コンペ決勝戦 発表のみ

10時30分 苗場山麓ジオパーク講話 / (審査)

10時50分 もちつき体験&試食会 / (審査)

11時40分 審査結果発表・表彰・講評

12時10分 閉会式

大学生による政策コンペ決勝戦発表スケジュール

時間	大学名	発表テーマ
① 9:00～ 9:15	北九州市立大学 檜原ゼミ	豪雪地域における「スノープライド」を軸としたまちづくりー新潟県津南町を事例としてー
② 9:15～ 9:30	日本大学 中川ゼミ	帰省型観光の提案 豪雪地帯が目指す理想のまちづくり
③ 9:30～ 9:45	明治大学 市川ゼミ	空き家を助雪し町を元気に！～あなたもオーナー「一口家主制度」～
④ 9:45～10:00	関西大学 永田ゼミ	雪資源を活用した湯治文化の再構築による地域活性化策
⑤ 10:00～10:15	明治大学 木寺ゼミ	地域留学が自然と人をつなぐまち～学生がデザインする新しいコミュニティのカたち～
⑥ 10:15～10:30	中央大学 細野ゼミ	癒される雪国ー津南ー ー雪がつなぐ人と人ー

# 大学生による政策コンペ 審査結果

## ◇日本公共政策学会長賞（最優秀賞）

明治大学 市川ゼミナール 公共政策班

空き家を助雪し町を元気に！～あなたもオーナー「一口家主制度」～

## ◇津南町長賞

中央大学 総合政策学部 細野助博ゼミナール

癒される雪国「津南」～雪がつなぐ人と人～

## ◇津南町議会議長賞

明治大学 木寺ゼミ

地域留学が自然と人をつなぐまち

～学生がデザインする新しいコミュニティのカたち～

## ◇津南町教育長賞

関西大学 永田ゼミナール

雪資源を活用した湯治文化の再構築による地域活性化策

## ◇日本公共政策学会特別賞

北九州市立大学 檜原ゼミナール

豪雪地域における「スノープライド」を軸としたまちづくり

－新潟県津南町を事例として－

## ◇公共政策フォーラム2016in津南実行委員会特別賞

日本大学 中川ゼミナール

帰省型観光の提案 豪雪地帯が目指す理想のまちづくり

## ◇ニュー・グリーンピア津南賞

### 【予選会第1会場】

日本大学 法学部 岩崎正洋ゼミナール

「いつ行っても良かった津南へ」－雪の結婚式からはじまる白銀の舞台－

### 【予選会第2会場】

法政大学 廣瀬克哉ゼミナール

「雪室にんじん」で津南を元気に

－雪室を利用した複合的な産業振興を目指して－

※「ニュー・グリーンピア津南賞」は、決勝戦に進めなかったチームの中でも発表内容が優れていたチームを表彰しました。

## 公共政策フォーラム 2016in 津南 開会式

【保坂晃久 津南町総務課企画財政班長】

会場にお越しの皆様、おはようございます。大変お待たせいたしました。ただ今から公共政策フォーラム 2016in 津南の開会式を始めます。この度はフォーラムに大勢の皆様からご参加いただきまして誠にありがとうございます。私は本日司会を務めさせていただきます、津南町役場総務課の保坂晃久と申します。不慣れですが、どうぞよろしくお願いいたします。

では、開会にあたりまして、日本公共政策学会の会長であります、名古屋大学大学院後房雄教授より、ご挨拶をいただきます。後会長よろしくお願いいたします。

【後房雄 日本公共政策学会会長】

皆さんおはようございます。日本公共政策学会の会長の後と言います。今日は皆さん新幹線の駅から、あるいは東京からバスで来られたと思いますが、非常にいい環境でいい施設で津南町の方に準備をしていただきました。



これからいよいよプレゼンの開始となりますが、今回皆さん少し驚かれたと思いますが、決勝戦方式ということで、各グループから上位3チームずつ決勝戦に残っていただき、そこでもう一度明日決勝戦を行うということになります。実は学会の方でもワーキンググループを作りまして、改善の方向を検討している最中でして、その一つは最後に順位を決めるときに、

審査員が分かれていて順位を決めるというのはなかなか難しいですし、学生の皆さんも納得しにくいと思います。決勝戦ということになれば同じ審査員がきちんと見て同じ基準で順位をつけられるということで良い方式ではないかと、我々も参考にして今後の改善につなげていきたいと思っています。少し新しい取り組みになりますが、そういう趣旨を踏まえて学生の皆さんにも協力していただきたいと思っています。

出していただいた論文については、昨夜遅くまでかかりまして、読ませていただきました。現地調査をやられていたチームも多くて、よく考えられた中身だったと思います。それをいかに分かりやすく強い意欲を持って伝えていただくか、今日はそういうことになると思います。ぜひ思い切ってそのメッセージが伝わるように皆さんには頑張ってもらいたいと思います。我々審査員も楽しみに聞かせていただきたいと思いますので、今日はぜひ実力を発揮して興味深い発表をしていただくように期待しまして、開会の挨拶とさせていただきます。今日はよろしくお願いいたします。

【保坂晃久 津南町総務課企画財政班長】

ありがとうございました。

続きまして、公共政策フォーラム 2016in 津南実行委員会委員長であります、津南町副町長小野塚均よりご挨拶を申し上げます。小野塚副町長よろしくお願いいたします。



【小野塚均 津南町副町長】

皆さんおはようございます。ただ今ご紹介いただきました、本フォーラムの実行委員長、津南町副町長の小野塚均と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

18の大学の皆様、ようこそ津南町へ、ようこそニュー・グリーンピア津南へお越しくださいました。心から歓迎を申し上げます。

さて皆さん、「みんな雪のおかげ」ということを政策のテーマにいたしまして、各種資料収集や津南町の現地の方に足を運びいただき関係する町民の皆様と意見交換をしていただいたと聞いております。それを基にして皆様方から提言をしてくれることに、大変楽しみにしております。



私もそうですが、この地にどっぷりと浸かっていると、どうしても新しいアイデア、また新しい発想が浮かんできません。学生の皆さんからしっかりと津南の現状を分析したうえで、若い目で、また若い感覚で提言をしてくれること、これはきっと津南町の今後の政策に役立つのではないかと考えておりますし、またひとつのアイデアに

なるのではないかと期待をしているところでございます。

今日は予選会、明日は決勝戦ということでございます。皆さん気楽に思いっきり発表していただければと思っております。

最後になりましたが、本フォーラムの企画から本日の開催までご指導いただきました、後日本公共政策学会会長様はじめ、日本公共政策学会の皆様、そして地元新潟県立大学田口准教授様、本当にお世話になりました。ありがとうございます。感謝を申し上げます。また、皆様方の益々のご健勝をご祈念申し上げまして、甚だ簡単ではございますが、一言のご挨拶に代えさせていただきます。本日はありがとうございます。頑張ってください。

【保坂晃久 津南町総務課企画財政班長】

ありがとうございました。

次に、大学生による政策コンペ審査員の皆様をご紹介いたします。まず審査員長でございますが、今ほどご挨拶をいただきました日本公共政策学会の後房雄会長です。なお審査員長は、本日の政策コンペ予選会においては、両会場を総合的に審査いたします。

続きまして、政策コンペ予選会第1会場の審査員をご紹介します。はじめに日本公共政策学会副会長であります、関西大学教授岡本哲和様です。

日本公共政策学会理事であります、屋間守仁様です。

津南町役場総務課の根津和博総務課長です。

津南町教育委員会の清水修教育次長です。

続きまして、予選会第2会場の審査員の皆様をご紹介いたします。日本公共政策学会副会長であります、東京大学教授加藤淳子様です。

日本公共政策学会会員であります、新潟県立大学准教授田口一博様です。

津南町議会事務局の村山詳吾事務局長です。

最後に、株式会社津南高原開発代表取締役社長樋口明様です。

本日の予選会については、時間の都合上2つの会場に分けて審査を行います。明日行われます決勝戦については、この体育館を会場に、審査員9名全員で審査を行います。

では以上で開会式を終了いたします。予選会を予定通り10時から行います。第1会場は6階のオーロラ、第2会場は4階の大会議室です。では皆様、移動と準備をよろしく願いいたします。ありがとうございました。



# 大学生による政策コンペ 決勝戦

【保坂晃久 津南町総務課企画財政班長】

皆様おはようございます。本日は、昨日行われた予選会を勝ち抜いた6チームによる決勝戦となります。はじめに決勝戦の進め方を説明いたします。私が「始めてください」と言いましたら発表を開始してください。発表の標準時間は15分です。発表開始から13分経過したところでベルを1回鳴らします。15分経過したところでベルを2回鳴らします。18分経過したところでタイムキーパーが「終了してください」と伝えますので、その際は発表が途中であっても直ちに終了してください。なお、決勝戦では発表後の質疑応答は行いません。

決勝戦はこの後午前9時から開始となりますので、1番目の発表の北九州市立大学檜原ゼミの皆さんは準備をお願いいたします。

それでは皆様、大変お待たせをいたしました。「公共政策フォーラム in 津南」2日目となりましたが、ただ今より大学生による政策コンペ決勝戦を行います。

はじめは、北九州市立大学檜原ゼミの皆さんによる発表です。それでは、発表を始めてください。

—北九州市立大学檜原ゼミ発表—

ありがとうございました。北九州市立大学檜原ゼミの皆さんによる発表でした。



続きまして日本大学中川ゼミの皆さん準備をお願いします。

それでは日本大学中川ゼミの皆さんによる発表です。発表を始めてください。

—日本大学中川ゼミ発表—

ありがとうございました。日本大学中川ゼミの皆さんによる発表でした。



次に、明治大学市川ゼミの皆さん、準備をお願いいたします。

お待たせいたしました。明治大学市川ゼミの皆さんによる発表です。それでは、発表を始めてください。

—明治大学市川ゼミ発表—

ありがとうございました。明治大学市川ゼミの皆さんによる発表でした。



では次に、関西大学永田ゼミの皆さん、準備をお願いいたします。

お待たせいたしました。関西大学永田ゼミの皆さんによる発表です。それでは、発表を始めてください。

#### ー関西大学永田ゼミ発表ー

ありがとうございました。関西大学永田ゼミの皆さんによる発表でした。



では次に、明治大学木寺ゼミの皆さん、準備をお願いいたします。

お待たせいたしました。明治大学木寺ゼミの皆さんによる発表です。それでは、発表を始めてください。

#### ー明治大学木寺ゼミ発表ー

ありがとうございました。明治大学木寺ゼミの皆さんによる発表でした。



では次に、中央大学細野ゼミの皆さん、準備をお願いいたします。

お待たせいたしました。決勝戦最後となります。中央大学細野ゼミの皆さんによる発表です。それでは、発表を始めてください。

#### ー中央大学細野ゼミ発表ー

ありがとうございました。中央大学細野ゼミの皆さんによる発表でした。



それでは、決勝戦6チームすべての皆さんから発表をいただきました。6チームの学生の皆さん、それから最後まで聴講していただきました皆様、大変ありがとうございました。

この後審査に入りますが、その間の時間帯に、このあとすぐ苗場山麓ジオパークの講話、それからもちつき体験と試食会を行います。審査員以外の皆様はこのままこの会場でお待ちください。審査員の皆様は4階の小会議室で各賞の選考を行っていただきます。では、審査員の皆様はご移動をお願いします。

# 苗場山麓ジオパーク講話・もちつき体験&試食会

【保坂晃久 津南町総務課企画財政班長】

会場の皆様、まだお席にお戻りでない方もいらっしゃると思いますが、時間の都合もありますので、始めさせていただきたいと思います。

ではこれより、苗場山麓ジオパークの講話を始めさせていただきます。お話いただくのは、津南町教育委員会ジオパーク推進室の佐藤雅一室長です。それでは佐藤室長、よろしくお願いいたします。

【佐藤雅一 ジオパーク推進室室長】

皆さんこんにちは。苗場山麓ジオパーク推進室におります、佐藤雅一と申します。どうぞよろしくお願いたします。



※以下、配布された資料の内容を掲載します。

## 苗場山麓ジオパークの本質の考える

ー過疎・山村経営の秘策は、人財育成と潜在資源の品質管理ー

### 1. ユネスコ・ジオパークの理念

- : 持続ある地域を考える
- : 潜在的資源であるジオ+エコ+カルチャーを捉える

### 2. 日本ジオパークネットワークの実態

- : 43ヶ所の認定ジオパーク
- : 参加自治体 155ヶ所は約1割（全国の自治体数 1,718）

↓

潜在的資源の再評価と保全活用 ⇒ 観光振興

潜在的資源を基盤とした郷土教育の展開 ⇒ 教育

### 3. 灯台もと暗しの潜在的資源

- : 地球儀の俯瞰 ⇒ 北緯 37° の主要都市に並ぶ苗場山麓ジオパーク
- : 8,000年前からの多雪化 ⇒ 100年後も変わらない多雪環境の認識
- : 冬季 100日越冬する生きる力の底力
- : 苗場山麓に広がる自然環境（ジオ+エコ）と歴史文化（カルチャー）

↓

【苗場山麓だからできること！苗場山麓でしかできないこと！】を探る力

#### 4. 地域を語れる人財の育成

- : 自らの言葉で郷土を語る力（郷土愛・誇り）
- : 英語で郷土の歴史文化などを伝える力（国際人）

↓

年間生まれる 50 人から育つ未来のリーダー ⇒新しい価値の創造＝【地域公共財】

- : 地元に残り、誇り高き地場産業に就き、地域を守る人財
- : 県外へ出て学問や技術を学び、外で郷土を語り援護射撃する人財
- : 県外で新しい価値観や技術を学び、誇りある郷土に戻り、起業する人財
- : 人生で挫折しても、誇り高き郷土に戻り人生をリセットできる人財

#### 5. 「苗場山麓」という地理的概念が生む新しい地平

- : 新潟県津南町と長野県栄村の越境ガバナンス
- : 苗場山麓ジオパークの地政学的位置
- : 郷土愛に満ちた潜在的資源の認識と資源(品質)管理と資源(品質)保全 ⇒DMO

【保坂晃久 津南町総務課企画財政班長】

佐藤室長、大変ありがとうございました。日本ジオパークに認定されています苗場山麓ジオパークの取り組みについてご紹介しました。佐藤室長にもう一度盛大な拍手をお願いいたします。

それでは続きまして、もちつき体験と試食会に移ります。皆さん後ろをご覧ください。

昔ながらの杵と臼を用意してございます。今の時代なかなか体験することがないと思います。時間に限りはありますが、どなたでも体験できますので、ぜひこの機会にもちつきを体験してみてください。その後は、つくたてのお餅をお召し上がりいただきたいと思います。



## 審査結果発表・表彰・講評・閉会式

【保坂晃久 津南町総務課企画財政班長】

会場の皆様ご連絡いたします。決勝戦の審査が終わりましたので、お席の方にお戻りいただきますようお願いいたします。もうしばらくで再開しますので、お席の方にお戻りください。

大変お待たせいたしました。ただ今から「公共政策フォーラム 2016in 津南 大学生による政策コンペ決勝戦」の審査結果を発表いたします。審査結果の発表は、実行委員会小野塚委員長からお願いいたします。

【小野塚均 公共政策フォーラム 2016in 津南実行委員長】

それでは、政策コンペ決勝戦の審査結果を発表いたします。

はじめに、津南町教育長賞を発表いたします。津南町教育長賞は、関西大学永田ゼミナールです。

続きまして、津南町議会議長賞を発表いたします。津南町議会議長賞は、明治大学木寺ゼミナールです。

続きまして、津南町長賞を発表いたします。津南町長賞は、中央大学総合政策学部細野助博ゼミナールです。

続きまして、最優秀賞であります、日本公共政策学会賞を発表いたします。日本公共政策学会賞は、明治大学市川ゼミナール公共政策班です。

続きまして、日本公共政策学会特別賞を発表いたします。日本公共政策学会特別賞は、北九州市立大学檜原ゼミナールです。

最後に、公共政策フォーラム 2016in 津南実行委員会特別賞を発表いたします。公共政策フォーラム 2016in 津南実行委員会特別賞は、日本大学中川ゼミナールです。

以上で受賞チームの発表を終わります。

【保坂晃久 総務課企画財政班長】

それでは表彰に移りますが、賞状を授与していただく皆様、表彰されます6チームの代表の方お一人ずつからは、あらかじめステージ上にお上がりいただきたいと思います。学会の岡本副会長、津南町議会議長、津南町副町長、津南町教育長はお上がりください。それから、6チームの代表の方お一人ずつお上がりください。

はじめに、公共政策フォーラム 2016in 津南実行委員会特別賞の表彰です。小野塚実行委員長と、受賞された日本大学中川ゼミの代表の方、前の方にお進みください。

—公共政策フォーラム 2016in 津南

実行委員会特別賞授与—

おめでとうございます。お二人はそのままステージ上にいてください。



続きまして、日本公共政策学会特別賞の表彰です。岡本副会長と受賞されました北九州市立大学櫛原ゼミの代表者は前の方にお進みください。

—日本公共政策学会特別賞授与—



続きまして、津南町教育長賞の表彰です。桑原教育長と受賞された関西大学の方は前の方にお進みください。

—津南町教育長賞授与—



続きまして、津南町議会議長賞の表彰です。草津議長と受賞された明治大学木寺ゼミの方は前の方にお進みください。

—津南町議会議長賞授与—



続きまして、津南町長賞の表彰です。上村町長と中央大学の方は前の方にお進みください。

—津南町長賞授与—



最後に、最優秀賞であります、日本公共政策学会長賞の表彰です。後会長と受賞されました明治大学市川ゼミナールの方は前の方にお進みください。

—日本公共政策学会長賞授与—



受賞されましたチームの皆さま、大変おめでとうございます。

それではここで、突然の指名で恐縮ですが、見事学会長賞を受賞されました、明治大学市川ゼミの代表の方から、喜びの声を一言いただきたいと思います。よろしく申し上げます。

#### 【明治大学市川ゼミ代表】

明治大学市川ゼミナールです。今回、このような日本公共政策学会長賞という素晴らしい賞をいただいて、非常に嬉しく思っております。今回我々のチームは4人と少数精鋭でここまでやってきました。とても苦勞の連続で、つらい日々が続いていたんですけども、今回この場でこのような賞をいただいて、今まで頑張ってきて良かったなど、今心から思っています。僕自身新潟の出身で、この津南町に関しては何度も来たことがあります。なのでこの大会には元々前から何か縁のようなものを感じておりました。今回、自分が





代表という立場でマイクの前に立たせていただいていることを非常に嬉しく思います。今回ここまでやって来られたのも、いろいろな沢山の方に支えていただいたからであります。津南町の企画課の小林様をはじめ、多くの方々と連絡等を取らせていただいて、やり取りさせていただきました。また我々のゼミの市川教授、ゼミ生のみんなにも支えていただいて、何と言っても今回一緒に戦ってくれた残りの3人のメンバーに深く感謝したいと思っています。このように素晴らしい賞をいただいているので、恥じない様に今後しっかり大学生生活を度って行けたらなと思っています。この度は大変ありがとうございました。

【保坂晃久 総務課企画財政班長】

ありがとうございました。それでは、もう一度会場の皆さまから盛大な拍手をいただきたいと思います。受賞されました6チームの皆様、誠におめでとうございます。

では皆様、お席の方にお戻りください。

以上で表彰式を終わります。

続きまして講評に移ります。この度審査員長を務めていただきました、日本公共政策学会の後会長より講評をいただきます。後会長よろしくお願ひします。

【後房雄 日本公共政策学会長】

皆さんどうもご苦労さまでした。特に入賞されたチームの皆さんはもう一度発表していただいたわけですが、率直言ひましてこの6チーム、あらためて聞かせていただいて、本当に差がなく順位を付けるのが非常に難しいものでしたが、9人の審査員それぞれで点数を付けた結果がこういう順位になったということです。ですので、なぜ1位なのか2位なのかという説明は求めないでいただきたいと思います。こういう結果であったということです。しかしせっかくですので、各チームについて少し聞かせていただいたうえでコメントを最後にさせていただいて、今後の参考にさせていただければと思います。



全体として今日あらためて聞いて痛感したのは、上位に残ったチーム共通の最大の特徴というのは、非常に独創的な軸になるアイデアが明確に通っていたという点だろうと思います。私は独創性という項目については6チームすべて満点を付けざるを得なかったという意味で、非常に独創性に優れた提案だったということが、全体を通して共通の

特徴だったと思います。それからデータベースについても、現地調査だけではなくて、いろんなところからデータを集めてきちんと分析をして、課題を明確にしたうえで提案を考えるという点も、上位チームについては完全に定着してきているという感想です。そのうえでどういう風に最後の提案を作っていくかということでも思ったことは、ひとつは津南町をフィールドにさせていただいて、その事例に深く入って問題を考えて提案を出すということをやっているわけですが、いかに密着して現地に則した提案を出すかという部分と、それから他の地域にも一般性・普遍性を持つような、広がりのある提案にするかという兼ね合いが難しいところだと思います。そのバランスですね。あまりに特殊な提案ですとインパクトに欠けるわけですが、ただどこにも当てはまるという提案では、やはり少し一般的すぎる

という印象になってしまうので、そのあたりのバランスの取り方が難しそうだと、皆さんの聞きながら思いました。それと同時に軸になるアイデアについても、それをとことん中心にしていきつつも、それを補完する内容のアイデアを組み合わせているという、ここについても、広がり過ぎると焦点がなくなるというコメントが出たりもしますけれども、しかし軸になるアイデアだけでは、それだけでいいのかという風なコメントも出たりしますので、このバランスということも皆さんいろいろと工夫されていたことだろうと思います。

詳しくはチームについては言えませんが、北九州市立大学櫛原ゼミについては、「スノープライド」という非常にクリアなコンセプトを中心に組み立てたという点で、その独創性が非常に際立ったわけですが、あえて言えば、「スノープライド」というものを持つことが非常に難しいわけで、いろんなプログラムを通じてそれが高まるのではないかということだったわけですが、やはり本当にそれでプライドが地域の人たちの中で高まるのかどうかということで、そこをもう少し詰めた形で提案していただくと良かったんじゃないかなと感じました。

それから日本大学中川ゼミですが、私も知りませんでしたけれども、WWOOFという事例を下敷きに帰省型観光という新しいものを津南町に則して提案されたということで、これも非常に独創的なアイデアの一つだという風に思います。中川ゼミについては、非常にプレゼンはハキハキとして聞きやすい報告ではあったんですが、プレゼンの工夫ということで言うとやや単調になったかなということで、メリハリを付けるとプレゼンとしてはもっと水準が上がったのではないのかなと感じました。

それから明治大学の市川ゼミですが、ここが最優秀賞になったわけですが、「一口家主制度」ということで、しかもNPOを要に置いてポイント制によって季節間のバランスを取るとか、それからターゲットを3つ非常に明確に設定するとか、それぞれに応じた過ごし方のケーススタディを示したということで、非常に事業として良く考えられた良いプランだということで、最優秀賞に結果としてはなったんじゃないかと思います。ひとつコメントするとすれば、ひとつのNPOとしてこういう事業を実施するっていうのが、やろうと思えばかなり実現可能性もあるようなプランだと思います。その時にいろんな経費、収入・支出の計算が非常に緻密だったという点がひとつのメリットだったと思いますけれども、ただこの経営するNPOについて言うと、NPOにも人件費が必要ですし間接費が必要ですので、事業費のところで一応プラスになるというだけでは、実は事業主体も入れて言うと果たして成立するのかどうかという問題も実施のところでは出てくると思いますので、そういうところも詰めて考えていただければいいなと思います。

それから関西大学の永田ゼミですが、江戸時代の湯治を下敷きに現代的に発展させるという、これも非常に斬新なアイデアだと思います。それから地域通貨も噛み合わせてということでしたけれども、ただ湯治という言葉にこだわるとやはり療養とか健康というところがどうしても聞いている方としては気になって、いろんな娯楽を多様に提案していたと思うのですが、療養という部分をどう位置付けるのかなということが少し気になる論点だったと思います。

それから明治大学木寺ゼミですが、「MIT」ということで地域留学制度というものを、しかも大学で地域系学部で触れていることとかを踏まえて、コミュニティデザインを学ぶ場を作るということで、これもなかなか実現の可能性がありそうなプランだと思ったんですけ

れども、これはかなり中身上津南町に焦点を当ててプレゼンをしていただいていたんですけれども、プラスの意味でも地域系学部の連携で、実際に実現するということが可能そうなプランだなということを感じただけに、肝心のMIT自体の運営とか体制という点が恐らく鍵になると思われますので、ここをどう詰めて考えるかという点も入っているとよりインパクトがあったのではないかなと思いました。

最後に、中央大学の細野ゼミですけれども、お寺という全チームの中でも非常に際立つところに注目して、なおかつタイ人ですね、非常に親日的だとか仏教国だとかということを加えて、お寺とタイ人、さらにはSNSを非常に使っているという要素も加えて、非常にクリアに事業のアイデアが伝わってきました。ただお寺が事業主体になるうえで、恐らくかなり問題がありそうな気がします。なかなかこれだけの事業を担うような主体にお寺がなっていくというのは、お寺も檀家が減ったりして弱体化しているところもありますので、そういう面にフォローがあるとより現実性が増したかなというようなことを考えながら聞かせてもらいました。

いずれにしても率直に言って、これだけで済ますのも惜しいなという気もしました。

最後にあえて紹介しますと、アメリカでティーチフォーアメリカという非常に有名なNPOがありまして、日本でも結構紹介されましたけれども、これはコロンビア大学のある女子学生が卒業論文でこのアイデアを書いて、それをそのまま就職せずにそのプランを持って寄附者を回って、何億かのお金を集めてそのまま立ち上げたんですね。これは要するに、大学生を教育の荒廃した地域に2年くらい教師として派遣をして、ほとんど大学進学者がいなかったような地域からかなりの大学進学者が出てくるという成果を上げて、なおかつそこに派遣された大学生は2年間の経験の後、一流企業から非常に優秀な人材として引っ張りだこになっているということで、現在では1,000人とか2,000人という規模で毎年大学生を派遣しているという事業を、卒業論文のプランをそのまま実行するということからそういう組織が生まれたという事例もあります。アメリカの場合は大金持ちがいっぱいまして、いいプランだったらそこに金を出そうという人がいるという状況ももちろん有利な条件としてあるんですけれども、日本でも工夫をすれば、そういうことについてはかなりやり易い条件が整ってきていますので、ここはそういう場ではありませんけれども、実際に自分のひとつの将来設計として事業を立ち上げるということも頭の隅に置きながらプランを練っていただくと、より迫力のあるプランになるのではないのかなということも考えながら聞かせていただいたということであえて紹介させていただいた次第です。

今回決勝戦という方式を取らせていただいて、非常に私的な感想ですが、2日間非常にまとまりのあるプログラムで、なおかつ学生相互で他のチームから学ぶということも非常に促進されるので、初めての試みでしたけれども、なかなか効果のある方式だなということを確認させていただきました。これは工夫していただいた実行委員会に感謝をしたいと思います。

最後に、こういう充実したコンペができましたのも、調査受入れの段階から当日の運営まで、それから恐らく昨日の交流会でも随分このニュー・グリーンピアからも好意をいただいたのではないかなと思いますので、上村町長それからニュー・グリーンピアの樋口社長をはじめとして、受け入れてお世話していただいた津南町の方々に厚く御礼をさせていただいて、私の最後のコメントにさせていただきます。どうもありがとうございました。

【保坂晃久 総務課企画財政班長】

後会長、大変ありがとうございました。以上で表彰式と講評を終わります。

それでは、「公共政策フォーラム 2016 in 津南」の閉会式を行います。閉会にあたり、上村憲司津南町長よりご挨拶を申し上げます。上村町長、お願いいたします。

【上村憲司 津南町長】

こんにちは。本当にお疲れ様でございました。今日はようこそ大勢の皆さまから津南へおいでをいただきました。町民を代表させていただき、心からご歓迎を申し上げさせていたたく次第であります。本当に懸命な活動と発表をしていただきましたことに、冒頭謹んで敬意を表させていただき次第であります。正直言うとびっくりいたしました。また少し衝撃も受けました。私たちは何十年間この町をどう築いていこうか、四六時中そのことを考え続けており、自分たちでは津南町の町づくりの一番の先駆者である、また努力していく一員だ、そんなことを思いながら一日の業務に携わっているところでもありますけれども、この度皆様方から2週間、3週間という本当に短い時間、津南町にお出でをいただいて、これだけのことを練り上げてくださることができるんだ、そのことを大変嬉しく思い、心から感激をいたしました。この後挨拶を申し上げますけれども、その前にひとつご提案をさせていただき、お約束をさせていただきたいと思っております。それは、今日ご発表いただいたそれぞれのご提言というものの続編を、なんとしても皆さんからこの津南へまたお越しいただいて、これからずっとそうしたテーマについて学究を極めていただけたらと、そのことを強く思います。どうぞこれからいつでも結構です、皆様方がそういった思いあるいは行動、そういったことを思われたとき、私どもの町役場の方に「公共政策フォーラム in 津南に参加したものです」そう言っていただければ、いつでも最大限の便宜を図らせていただく、そのお約束だけ予め申し上げます。感謝の代わりとさせていただきたいと思っております。



それではご挨拶を申し上げます。

2016年度の公共政策フォーラムは、ニュー・グリーンピア津南を会場に開催させていただきました。日本公共政策学会の後房雄会長をはじめ、学会の皆様や関係者各位よりご支援をいただき、無事開催できたことに対し衷心より御礼申し上げます。また、全国各地から18もの大学ゼミの皆様からご参加いただき、「みんな雪のおかげ」

というテーマで、我が町の現状と課題をよく研究し、熱心に政策提言をしていただきましたことに深く感謝申し上げます。本日の政策コンペ決勝戦は私も拝聴し、大変感銘をうけたところではありますが、残念ながら決勝に進めなかったゼミの皆様による昨日のプレゼンテーションも大変素晴らしいものであったと聞いております。改めて皆様からいただいたご提言のすべてを私も拝見し、町政に活かして参りたいと考えております。また、町広報誌やホームページなどを通じて、広く町内外にもご紹介して参りたいと考えております。

さて、豪雪地である我が町において「雪」というものは、そこに生活していく以上避けては通れない宿命であり、町づくりのうえでも大きな課題であります。我が町は、豊富な湧水により大地が潤い、そこから生み出される豊かな森林資源と安全安心な農産物、そして遙か

縄文の時代から続く歴史、文化があります。私はそれらすべてを雪の恩恵と捉え、住民が胸を張って「みんな雪のおかげです。」と言えらるとともに、地域の子供たちが将来、世界のどこで生活しても心の中で津南の誇りを持ち続けていられるような町づくりを進めています。そういった私の想いと、外から見た津南町が皆様の目にどう映るか大変興味深くもあり、政策提言のテーマを設定させていただきました。この度のフォーラムをきっかけに、これからも津南町に関心をお寄せいただき、皆様が津南町で見て聞いて感じたことなどを全国各地でご紹介いただければ幸いに思います。

結びに、この度の政策提言に真剣に取り組んでいただきました学生の皆様をはじめ、フォーラム開催にあたりご尽力いただきました日本公共政策学会の皆様や、関係したすべての皆様に重ねて感謝申し上げます、閉会の挨拶とさせていただきます。大変ありがとうございました。

【保坂晃久 総務課企画財政班長】

ありがとうございました。

以上を持ちまして全日程を終了いたしました。昨日今日と大変素晴らしいご提言をしていただいた大学生の皆様、誠にありがとうございました。また本日を迎えるまでにご指導、ご支援いただきました日本公共政策学会関係者の皆様、そしてフォーラムの会場設営と運営にご協力をいただきましたニュー・グリーンピア津南の職員の皆さま、大変ありがとうございました。事務局を代表しまして厚くお礼を申し上げます。お帰りの際には皆様お忘れ物のないよう、交通事故等にお気を付けていただきますようお願いいたします。また学生の皆様、今回に限らず改めて津南町に遊びに来ていただければ幸いに思います。またどこかでお会いしましょう。以上を持ちまして、「公共政策フォーラム 2016 in 津南」を閉会とさせていただきます。皆様、本当にありがとうございました。



## 公共政策フォーラム 2016in 津南 実施体制

### 【公共政策フォーラム 2016in 津南実行委員会】

実行委員会役職	氏名	所属
委員長	小野塚 均	津南町副町長
副委員長	小森 岳史	日本公共政策学会 公共政策フォーラム委員長
委員	桑原 正	津南町教育長
委員	根津 和博	津南町総務課長
委員	村山 詳吾	津南町議会事務局長
監事	田口 一博	日本公共政策学会 会員
監事	保坂 晃久	津南町総務課企画財政班長
事務局	小林 義明	津南町総務課企画財政班 主事

## 公共政策フォーラム 2016in 津南 準備状況

- 2014年9月29日 津南町が2016年公共政策フォーラムの招致を決定、公共政策学会理事会に申し出
- 2014年10月25日 公共政策学会理事会で、2016年公共政策フォーラムを津南町で開催することに決定
- 2015年10月17日 公共政策フォーラム 2015in 釧路で参加呼び掛け
- 2015年11月30日 テーマを「みんな雪のおかげ」に決定
- 2016年2月18日 開催要領を発表、参加申込み受付開始
- 2016年5月20日 津南町広報紙5月20日号にて、町民へ調査協力等の周知
- 2016年6月11日 公共政策学会第20回研究大会で、上村憲司津南町長が参加呼び掛け
- 2016年6月16日 参加申込締切（20チームが応募）
- 2016年7月5日 申込状況により2日目の内容を変更
- 2016年7月20日 津南町広報紙7月20日号にて、町民へフォーラム開催等の周知
- 2016年8月24日 審査員委嘱
- 2016年9月5日 津南町広報紙9月5日号にて、町民へフォーラム参加の呼び掛け
- 2016年9月20日 小論文提出締切（18チームが提出）
- 2016年9月23日 前日準備、参加チームリハーサル
- 2016年9月24日 公共政策フォーラム 2016in 津南第1日（政策コンペ予選会）
- 2016年9月25日 公共政策フォーラム 2016in 津南第2日（政策コンペ決勝戦）

## 公共政策フォーラム 2016in 津南 決算書

### 【収入の部】

科 目	予算額(円)	決算額(円)	備 考
負担金	600,000	554,289	
日本公共政策学会負担金	300,000	300,000	
津南町負担金	300,000	206,289	
交流会参加費	0	48,000	町関係者交流会参加費個人負担分 8名×6,000円
雑入	100	0	
雑入	100	0	預金利息
<b>合 計</b>	<b>600,100</b>	<b>554,289</b>	

### 【支出の部】

科 目	予算額(円)	決算額(円)	備 考
報償費	10,000	0	
審査員等謝礼	10,000	0	
旅費	20,000	0	
審査員等旅費	20,000	0	
需用費	353,440	350,889	
消耗品費	30,000	13,957	ゴム印、プログラム用色紙、賞状用紙、賞状用筒
食糧費	20,500	67,040	審査員・事務局弁当 16名×1,030円=16,480円 審査員・事務局お茶 16本×160円=2,560円 交流会参加費 8名×6,000円=48,000円
印刷費	302,940	269,892	審査論文集50部 137,592 円 審査論文集(追加)70部 132,300円
役務費	5,000	0	
手数料	5,000	0	振込手数料
委託料	180,000	60,000	
講話委託料	15,000	0	苗場山麓ジオパーク講話
体験型イベント委託料①	60,000	60,000	もちつき体験
体験型イベント委託料②	50,000	0	アンギン編み体験(中止)
体験型イベント委託料③	55,000	0	勾玉作り(中止)
使用料及び賃借料	20,000	143,400	
会場使用料	20,000	143,400	ニュー・グリーンピア津南会場使用料 30,000円 パイプ椅子レンタル代 113,400円
予備費	11,660	0	
予備費	11,660	0	
<b>合 計</b>	<b>600,100</b>	<b>554,289</b>	

## おわりに

今回のフォーラムは公共政策フォーラム史上初の町村での開催であり、ほとんどが都市部で生まれ育った学生にとっては、純農山村はなかなかピンと来なかったのではないのでしょうか。実行委員会ではテーマ「みんな雪のおかげ」がどのように解釈されるのか、どのくらいの広がりを持った論文が出てくるのかと注目していました。結果として、津南町のインパクトが強烈だったせいも、雪国一般ではなく「津南町における政策」に焦点を当てた研究がほとんどだったことは意外でした。町の人たちと触れ合い、その声を聞こうとしたゼミが多かったことも特筆すべきものだと思います。

生まれ育った地域に誇りを持つべきである、言い換えれば津南町は誇りを持つべき地域であることを多くの学生たちが主張したことは、当町の住民の心にも響いたようです。また多くの学生は現地調査で接した町民に暖かく迎えられ、これまで全く知らなかった世界を感じていただいたことは、良い経験となったようです。

多くの調査を受け入れ、また提言を受け取った当町や町民は今後どうすべきなのか。若者の斬新な視点と感覚でまとめられた提言を踏まえ、その実現性を検討することが必要です。現地調査を通じて当町に来た学生たちをリピーターやファンにするため、学生たちへの返信を行うことが必要だと考えます。

今回のフォーラムは従来とは異なる構成で行いました。従来は、1日目に政策コンペを開催し、2日目に最優秀賞チームの発表と公開シンポジウム等を行っていました。政策コンペでは、2会場で別々に審査されるにも関わらず最優秀賞が決定されることや、審査結果の講評が短く、自己に対する意見等が十分に聞けないこと等に対し不満が出ていたようです。また審査員にとっても短い時間で審査結果をまとめなければならず重い負担だったようです。以上を踏まえ、今回は公開シンポジウム等を行わず、2日間にわたり政策コンペを行いました。両日とも公開であることや2会場で別々に審査することは同じですが、2会場から上位3チームを選考し、翌日に決勝戦として6チームが再度発表、全審査員が審査する方法にしました。この方法により、なぜこのチームが優秀なのか納得できるようになったと思います。2日間の審査で審査員の負担は大きくなりますが、講評を時間をかけて構成することで、審査への信頼も得ることができたと思います。

また会場についても、同一施設内で発表から交流会、宿泊等全日程を完結できたことも効果的でした。移動時間の調整やバスの手配等が不要であり、事務量軽減や経費削減につながり、交流会等を充実させることができました。同様な会場を手配するのは難しいと思いますが、学生の負担軽減や運営の容易さに繋がるので参考にいただければと思います。

最後に、今回のテーマ「みんな雪のおかげ」は、確かに人が住む地域としては世界最大の降雪地・津南町から発想したのですが、これまでは取り上げられてこなかった地球レベルのテーマ（雪と水資源、ユーラシア大陸と日本海との熱循環と地球環境等）の解釈をも期待しての設定でした。津南町や積雪のインパクトが強かったのか、津南町に関する研究が大多数だったことは開催地としては嬉しい誤算でしたが、もっと視野を広げた研究も今後は期待したいと思います。



『公共政策フォーラム 2016 in 津南 報告書』

発行：平成 28 年 10 月

公共政策フォーラム 2016 in 津南実行委員会事務局

(津南町総務課内)

〒949-8292 新潟県中魚沼郡津南町大字下船渡戊 585 番地

TEL : 025-765-3112 (直通) FAX : 025-765-4625

E-mail : [somu@town.tsunan.niigata.jp](mailto:somu@town.tsunan.niigata.jp)